

Market Flash

発表日: 2018 年 8 月 8 日 (水)

自発的離職率が上昇 賃金加速の兆候

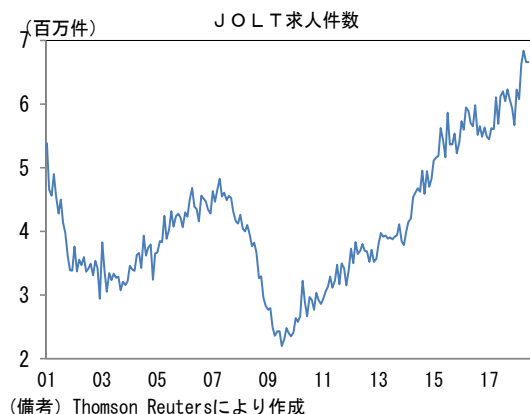
～かつてイエレン氏が重視したあの指標～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

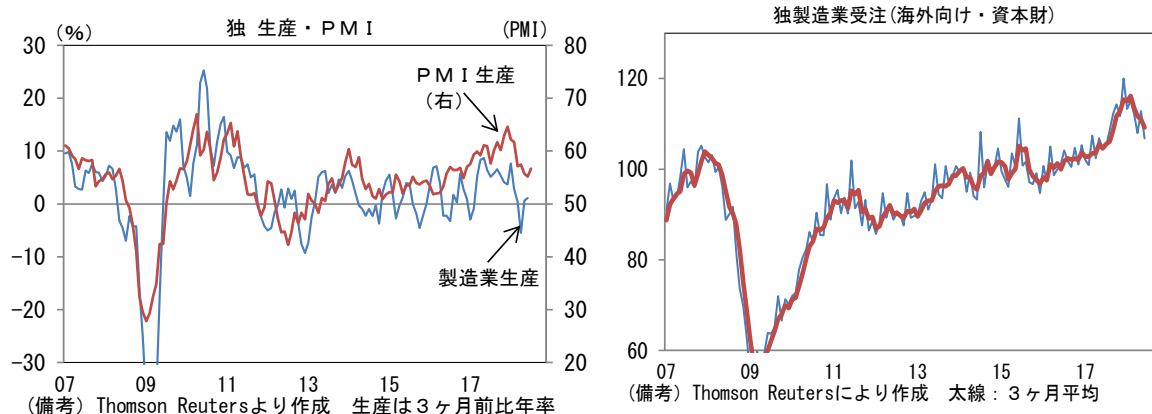
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

【海外経済指標他】

- ・ 6 月 JOLT 求人統計によると求人件数は 666.2 万件と、統計開始以来の最高点付近を維持。ミスマッチを伴いつつも企業の旺盛な採用意欲が示された。



- ・ 6 月ドイツ鉱工業生産は前月比▲0.9%と 2 ヶ月ぶりに減産。5 月に大きく増加した反動がでた形だが、製造業生産の 3 ヶ月前比年率の伸びは減速基調にあり、17 年後半の勢いは失われている。海外向け資本財受注が減少傾向にあり、輸出が精彩を欠いていることが背景。こうした姿は PMI が示唆していたものと概ね整合的で、この関係に基づけば製造業セクターは力強さを欠いた状態が続く見込み。



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

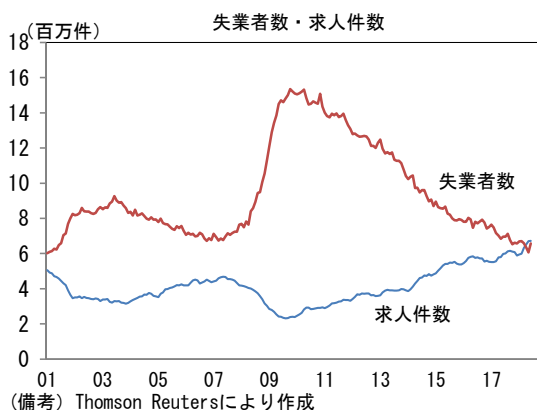
- ・前日の米国株は続伸。決算シーズンを通して新規の材料に乏しいなか、好調な米経済を後ろ盾に資金流入。WT I 原油は69.17^F (+0.16^F) で引け。
- ・前日のG10 通貨はUSDがやや軟調。特段の材料がないなかでアジア時間から欧州通貨を中心にUSDが売られた後、米国時間は米長期金利の上昇と共に下落幅を埋める展開に。USD/JPYは111半ばへとやや円安方向に推移。
- ・前日の米10年金利は2.973% (+3.4bp) で引け。新規の材料に乏しいなか、株式市場の上昇を横目に金利上昇。欧州債市場(10年)はドイツ(0.409%、+2.0bp)、フランス、スペインが金利上昇となった反面、イタリアが金利低下。対独スプレッドはイタリアがワイドニング。

【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標・注目点】

- ・日本株は欧米株高に追随して小高く寄り付いた後、もみ合い(10:00)。明日はF F R(日米通商協議)の交渉に注目。

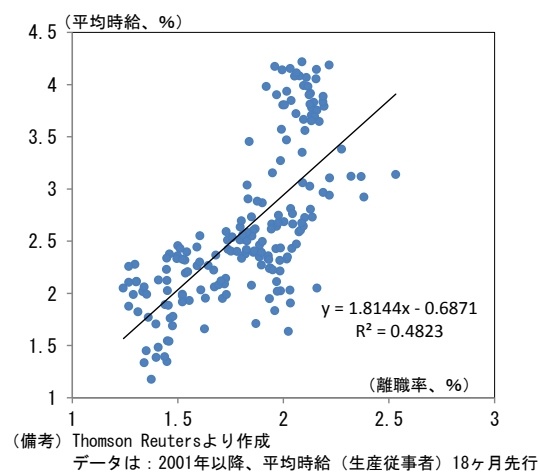
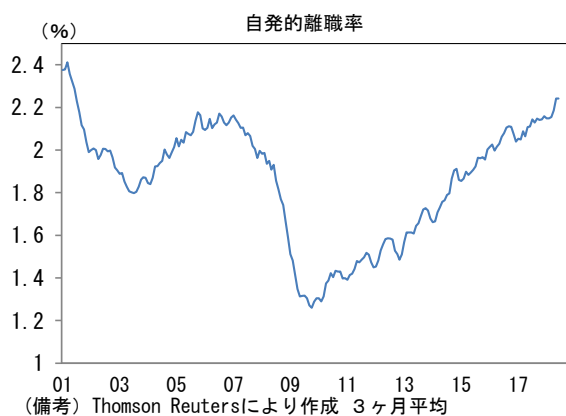
<#FED #JOLT #求人件数>失業者 #平均時給 #自発的離職率>

- ・上述のJOLT統計では求人件数の増加のみならず、労働市場の質的改善を示唆する幾つかの兆候がみられている。
- ・一つは求人件数が失業者数を上回ったこと。両者の数値が逆転したからといって閾値を跨ぐような環境変化が起こる訳ではないが、労働市場の質的改善を象徴する出来事だろう。労働市場の逼迫は、企業に省力化のための設備投資を促すほか、労働者を確保するための人件費増加に繋がる。



- ・もう一つは、かつてイエレン氏がF R B議長の座にあった時に重視していた自発的離職率。自発的離職率は2018年入り後に上昇ペースを速め、水準は2000年代前半と同程度に回帰している。これは自身のスキルに自信を持つ労働者が待遇改善を求めて積極的に転職活動を行っていることが主背景。労働者自らが職を辞すのは、企業相手に有利な交渉できるとの勝算があるからだろう。
- ・こうした労働者の積極的行動は賃金上昇の前兆と認識される。実際、自発的離職率と平均時給にはそれなりの強い相関があり、自発的離職率が平均時給に18ヶ月程度の先行性を有していることがわかる。この関係が崩れていなければ、平均時給は加速度的な上昇が見込まれ、F E Dの利上げをま

すまず正当化するだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

